

後期研修を終えて

産婦人科医師 水谷 佳敬 平成 18 年東邦大学医学部卒

私は他院で一度、家庭医療の後期研修を終えてから、改めて産婦人科医として後期研修を再スタートいたしました。当院の特徴として、周産期母子医療センターであるということ、婦人科癌治療も積極的に行っていることがあげられます。逆に、不正性器出血や帯下異常、妊娠初期の診断、更年期など、産婦人科領域のプライマリケアを経験する場面は多くはありません。離島からの搬送受け入れなど、その機能は高次医療施設に特化していると言えます。

一見、プライマリケアからは遠ざかった施設のように思えますが、当院での 3 年間の研修を通して、かえってウィメンズヘルスにおけるプライマリケアの重要性が見えてきたように感じています。それは私の家庭医としての臨床経験の上に成り立つ側面が大きいとは思いますが、後期研修を通して、その重要性を理解できるか否かが、単なる知識や技術の研鑽だけでなく、大きな意義を持っているものと感じています。

根治困難な進行がん患者や、進歩のない産科医療において、唯一のアウトカムの改善方法が予防医療である場合が数多くあります。目下の患者を救命すべく最善の努力や研究を重ねる重要性も身に染みて学びましたが、同時に、重症化や発症を未然に防ぐための様々な介入・システムの重要性にも改めて気づかされました。

医療とは本来、予防と治療の 2 本立てで初めてその効果が最大となるものですが、高次医療機関では予防的側面が重要視されることが少なく、介入に関するコストも度外視される傾向が否めないと感じました。その点について、当科での取組の一環として、妊娠糖尿病の外来フォローが挙げられます。後の糖尿病発症のリスクとしての認知も、まだ一般的ではないですが、こういった取り組みは高次医療機関において予防的視点を学ぶことができる好例と思われる。また当院ではその機能から予防接種の積極的接種は行っていないが、研修期間中に流行し話題となった風疹および先天性風疹症候群の予防に関し、産後の風疹ワクチン接種の導入についても病院から理解を示して頂き、産後健診においてワクチン接種を開始することができました。この他にも、臨床研究や学会発表も積極的に行っており、大学病院と比較しても遜色ない研修を送れるものと思います。

当科は豊富な症例を通して、妊娠や出産、疾病が妊娠に及ぼす影響や妊娠が疾病に及ぼす影響、疾病が女性のライフサイクルへ及ぼす影響など、女性の一生涯を通して疾病の管理や予防を学ぶことができるよい研修病院であると感じました。当科の研修スタンスも「見て、やって、教える」というものであり、手厚い指導体制のもとに研修開始後すぐに手術担当を任せられ、手術経験数も豊富であると思います。

母子周産期センターとしての高次医療機関での研修を行いながら、予防やウィメンズヘルス、臨床研究・学会発表についての研鑽を積みたいという学習者には、当科は産婦人科医としての素養を身に着けるためのよい研修先であると思います。